

みらいに向けてスポーツでどのようにまちを盛り上げていくか、地元根付いたスポーツに携わる人たちを招いて市長対談を開催。さまざまな立場からお話を伺いました

市長対談

先人たちの思いを『みらいへつなげよう』



育てる人
2009年より母校駒大苦小牧野球部の監督に就任。高校3年時には主将としてチームを引っ張り、甲子園初優勝を果たした。

する人
高校卒業後の2012年より王子イーグルス入団。チームの若手戦力として今後の活躍が期待される。

苦小牧市

支える人
スポーツ推進委員として、スポーツの普及振興に尽力。21年にわたる功績は平成27年度自治貢献者として表彰された。

支える人
体育協会の職員として、20年にわたってスポーツに関する事業や教室などに携わる。自身もアイスホッケー経験者。

テーマ1 スポーツとの関わり

市長…本日はよろしく申し上げます。本市は今年スポーツ都市宣言50周年を迎えますが、スポーツとまちづくりにという観点で、さまざまな立場からお話を伺いたいと思います。まず、これまでスポーツに対してどのように関わってきたか、また、それらの活動を通して感じたことなど、お話ししていただきたいと思っています。

小金澤さん…これまでスポーツに関する事業に携わってきましたが、とまこまいマラソン大会を長く担当しておりまして、10年前には参加者が千300人くらいだったのが昨年は2千173人まで増加しており、市民の方々のスポーツや健康に対する関心が非常に高まっているのを感じています。また、自分が立ち上げから携わっているスケートエンジョイスクールについては、募集定員を超える応募があり、非常に人気が高まっていますね。アイスホッケーを継続している子の約3分の2がエンジョイスクール出身者とのことで事業の成果についても手応えを感じています。

佐々木さん…小学3年生から野球を始めたのですが、初めてもらったグローブは、祖父からもらった使い古しのもので、当時はなかなかグロ



ブを買ってもらえませんでした。でもその経験が道具を大事にすることの大切さを教えてくれましたね。その後寮生活も経験し、上の学年を敬う心などをスポーツを通して気付かせてもらったと感じています。現在、母校駒大苦小牧の監督をさせていただいており、これまでの野球人生で培った道具を大事にする心や先輩を敬う心などを、もっともっと伝えていけたらと思いますね。

大澤さん…アイスホッケーを始めたのは小学生の時でした。小学校高学年になると、小学校のチームやクラブチームなど、3チーム掛け持ちするようになり、その頃からアイスホッケー漬けの毎日でした。今、こうしてアジアリーグで競技させていただいています。たくさんのチーム